

琉球大学学術リポジトリ

沖縄返還交渉資料第7巻

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-07 キーワード (Ja): 教育権分離返還構想, 日航の沖縄運航, 米国大統領選, 沖縄主席選挙, 米国側担当者の私見, 沖縄関係特別措置費, 土地問題, 立法院, 要望書, 琉球列島の統治に関する大統領令, 沖縄・小笠原及び級委任統治関係, 岸大臣 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43634

佐藤外務大臣臨時代理の記者会見

(43.11.15)

就
無期限

佐藤外務大臣臨時代理記者会見要旨
(追補)

昭和43年11月16日
報道課

これは記者会見中、佐藤外務大臣臨時代理が
中共に抑留されている日本人（新聞記者および
商社員）の問題について、オフ・レコとして答
えられた部分であり、取扱い特に注意ありたい。

（問）中共には、われわれの同僚の記者を含
め、3人の日本人が抑留されているが、これ
に関して、報復措置を含めて具体的対策
を考えておられるか。

（答）今度も田川君が行つて、この問題を話
し合つている。しかし、僕自身は、国内世
論をリードするマスコミの取上げ方が小さ
いのを不思議に感じている。

これらの駐在問題が、民間の話し合いに基
づくものであるとはいえ、日本人の生命
財産の問題である以上、外務省が放置して
おいてはならない問題であり、北京でなく
ても、あらゆる機会を捉えて対処しなけれ
ばならない。田川君が行つたこともその一
つの有効なチャンスであつた。しかし、こ
の問題は、双方で神経過敏になつてゐるの
で、事態に平靜に対処するためにも懇談と
いうことにしておいてもらいたい。

(問) 第三国で、外務省の役人が中共側と接觸するということか。

(答) そうなるといろいろ困難もある。

政経分離とはおかしなもので、いいたいこともいえないことがある。だが、日本に来ていた中共側の人物も、どんどん帰つており、どうも気まずい関係になつてゐる。

各国でも困つているのではないか。

ラスク長官も記者交換を積極的にやろうと提案しているのだが、うまくいかなかつた。

昭和43年11月16日

佐藤外務大臣臨時代理記者会見要旨

情報文化局報道課

佐藤外務大臣臨時代理は、11月5日閣議後、
外務省大臣室において記者会見を行ない、沖縄
問題、ベトナム戦後の経済復興問題、貿易自由
化問題、日中関係等につき記者側の質問に答え
たが、その要旨をとりまとめ参考までに送付す
る。

2

(問) 沖縄問題について、今次の首席公選で
即時無条件返還を主張する屋良氏が当選し
たことによる住民の民意をどのように受け
とめられているか

(答) 西銘、屋良両氏は師弟関係にあつたこ
とが決定的な要因であつたと思う。
政府の沖縄政策に対する批判の表われとは
考え方ないが、選挙結果も尊重して行きたい。
近く上京する屋良氏ともよく懇談して同氏
の今後の方針等について聞くつもりである。
当選後の同氏の発言にはゆとりもあるよう
である。

3

(問) 総裁立候補の記者会見で沖縄返還に關
連する基地については白紙といわれている
が、いつ頃態度をきめられるか、また、白
紙といわれた中に、いわゆる三原則に応じ
た核ぬきをも含んでいるか。

(答) 新大統領も勉強中と思われる所以先方
の体制が整へ、また国会等の締合をみた上

て来年秋には訪米して種々話をしなければならないと思つてゐる。外務当局にもその話をしており、それまでにいろいろ問題にとり組まなければならぬ。基地のあり方等についても検討して行かなければならぬ段階にある。この基地の問題と返還の時期の問題は相互にからみ合つており、これが外交の難しさである。

返還が近いとき、先のとき、あるいは相當先のときというように返還の時期によつて基地のあり方についての考え方は異つて來るので、はじめから決めてかかる必要があるとの国内の議論は一寸判りかねる。要するに星雲状態にあり、これから話合いの中で固めて行くことになる。

(問) 時期と基地の態様のからみあいは判るが、どちらかに腹をきめてから対米折衝に臨むのか、それとも米國との話合いの中で基地の態様をきめるのか。

(答) 先に話をきめて交渉するといふのではなく、話をしているうちに結論が出て来る。

(問) 外務当局は、ニクソンが登場したことでもあり、事務レベルで秋までにねまわしをしておく必要があり、それまでに総理に腹をきめて貰わねばならないといつてゐる。それとも総理は訪米して一発勝負をするつもりか。

(答) 勿論固めてからいく。

(問) 先程の御発言に非常に早く、本土並みの基地というのはどうも、というニュアンスが感じられるが。

(答) 非常に早く例えば明日にでも復帰させるのだといふと本土並みといふのは難しい。問題はそこにある。

(問) 本土並みに固執すると時期はおくれるということか。

(答) おくれるとはいわぬが。兩三年にメドをつけ、それから幾年か先に返還といふことになる。日米友好關係、日本の安全保障

の裡の中で双方に納得のいく話し合いをしなければならない。

(問) ジョンソン政権からニクソン政権になつてもジョンソン大統領との間の両3年という確信は変わらないか。

(答) 変つていない。私はわれわれの強い願望があることを先方も承知していると考えている。

(問) 訪米の際には、基地の態様も固まり、はつきりとめどをつけてくるのか。

(答) そうでなければいけない。

(問) 基地の態様の中には核の可能性も含まれているのか。

(答) 既にあるものが科学技術の発達により不要になることもある。そこが星雲状態、白紙の状態というわけだ。

(問) ニクソン新大統領はアジアの安全保障に対する日本の積極的役割を強調しているが。

(答) 力の問題であるから、外國がどういつてきても右から左にというわけにはいかない。アジアの問題は日本の安全保障にからむ問題である。それにどうして取組んで行くかという日本の基本的考え方を貫いて行かなければならない。

国際平和のため互に協力して行くが力以上のこととは無理である。

(問) ベトナム戦後の経済復興の構想について。

(答) 平和の戦い、生活の向上等に積極的に参加するということが日本の態度であると思う。戦争終結や平和招来のためにも何か日本でお役に立つがあれば、先方から望まれればできるることは一役買いたい。更に停戦後の復興については、具体的には一国だけではなく国際協議機関を通じて日本も協力するということになると思う。

(問) 米国が日本に貿易自由化を迫つて来て
いるが、これは日米関係に基本的な影響
をおよぼすものであると思うがどうか。

(答) ニクソン新政権の下で保護貿易主義の
傾向が強まるという見方がされているが、
こうなると今からきめこむのは先走りし
すぎる。K R、G A T T 以来の自由貿易
主義の基本路線をそう容易に変えるかど
うか。新政権の具体策をまつてとりくみ
たい。日本のテンポがおそいといわれて
いるが、政府は産業界とも協議して国内
に悪影響を残さぬよう配慮しつつ自由化
の方向へ最善をつくす。仮に米国が保護
主義をとる場合、米国とても輸出に依存
するところが大きいのだから自国だけが
無傷ですむものかどうか。

(問) とりあえず 20 日から日米交渉がはじ
まるが、やはり「待つ」態度で臨むのか。

(答) 互に主張すべき点は主張し、相手のい
い分はきくということだ。

(問) 明年度の対インドネシア経済援助につ
いて、5 億ドル中食糧援助分を除く 3 億
6 千万ドルの $\frac{1}{3}$ を負担するのか。

(答) まだ、具体的にきいていない。

(問) 北方領土について、外交交渉にとりく
む姿勢に迫力がないという印象をうける
が、例えば安全操業等についてもつと積
極的に交渉を推進するという考え方はない
か。また訪ソの考え方はないか。

(答) 「中間的なもの」がでて以来話し合い
をすすめているが、はつきり進んではい
ない。北方領土返還は國民の強い願望で
ある。今年は墓参も進んでいない。もう
少し先方にわが國の立場を理解してもら
わねばならない。訪ソしたいとの考えに
変わりはないが、領土問題は解決済とい
うのでは話にならない。

(問) 沖縄に戻るが、事務レベルで煮つまらない場合明年秋の訪米はとりやめるのか。

(答) それは来年の話であるので、答はあずからせてほしい。

(問) 主席公選の結果は、基地についての住民の厳しい考え方を表現したものと我々はみているが、対米折衝に際し、この世論をバックに基地について強い態度で臨むという考え方はないか。

(答) 世論の尊重ということは従来から強調してきているところで、世論がはつきり現われるのが選挙である。ただ選挙の結果をどう見るかというのは難しい。世論の動向をはつきりつかむことは必要である。

(問) 中共が7億の国民を支配しているという現実は總理も認めておられているが、現実には貿易関係すら満足にいっていない。かかる状態を總理はどう打開しようと考えられるか。

(答) 前提として、双方が相互尊重と内政不干涉を認めることが不可欠である。批判の強かつた岸内閣の時代においても、中共貿易は進んだが、今では、長期取極めずらもできないといふのは、これ以上の不幸はない。

(問) 対中共貿易に対する輸銀使用はケースバイ。ケースで考えるといつておられるが、今仮に大型商談がでてくれれば日中関係打開のため認めるか。

(答) ケースバイ。ケースで考えていくといふ従来の方針に何ら変更はない。中共との関係で、こちらの方が悪いことをしているつもりは全くない。

(問) 沖縄主席に屋良さんが当選されたが、対沖縄援助の方針に変更はないか。

(答) 選挙中に反対した人が当選したからといって従来の対沖縄援助方針を変えるといつたケチな考えはない。屋良さんの方にもいろいろ考えがあろうから、先ず、先方の話を承った上で考えてみたい。

總理記者會見記錄配布表

(含本日追補) 43. 11. 18

北米課

○ 加山官房長官秘書官

○ 總理府山野桂連局長 (2部)

○ 防衛庁 谷渕外參事官

(宮城防衛局調査課長代理
依頼)

○ 警察庁 中島警備局外事課長

○ 自治省 寺平大臣官房調査室

○ 内閣調査室 杉谷調査官

○ 末次一郎 日本健青会代表

○ 大庭信介 南方同胞援護会代表

○ 自民党 宮中調査室

(注) 高瀬大使、岸所長、小林総秘書官

在米大元日 教導隊より送付手函請。